

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

(別紙4)

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年5月19日

【評価実施概要】

事業所番号	0870200961		
法人名	有限会社 フルハウスカンパニー		
事業所名	グループホーム ひまわり		
所在地	茨城県日立市諏訪町1-20-18 (電話) 0294-28-5833		
評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	水戸市千波町1918 茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成21年2月19日	評価確定日	平成21年5月18日

【情報提供票より】 (平成21年1月7日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成17年12月29日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	12 人	常勤 6人, 非常勤 6人, 常勤換算 7人	

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り		
	2階建ての 1階部分		

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	42,000 円	その他の経費(月額)	15,000 円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(150,000円)	有りの場合 償却の有無	有
食材料費	朝食	300 円	昼食 500 円
	夕食	600 円	おやつ 200 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要(平成21年1月7日現在)

利用者人数	9 名	男性 3 名	女性 6 名
要介護1	2	要介護2	
要介護3	4	要介護4	3
要介護5		要支援2	
年齢	平均 82 歳	最低 68 歳	最高 94 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	秦病院、ブレインピア南太田、いばらき診療所ひたち
---------	--------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

「利用者が有する能力に応じて、可能な限り自立した日常生活を営むことができるよう支援する」という理念を掲げて実践している。
 利用者の健康状態の管理は協力医による月2回の往診や看護師による週3回の見守りがあり、安心して暮らせる医療体制が確立している。
 利用者は地域の人々と共に楽しみごとを共有し、職員と共に家庭的な雰囲気の中で生活している。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 外部評価の結果を踏まえ、運営推進会議やミーティングで話し合い、地域の人々との交流や地域の同業者とのネットワークづくりに努めるとともに、利用者の希望にそった外出支援は改善している。 また、利用者の重度化や終末期について関係者と話し合い、事業所の方針や支援体制づくりに取り組んでいる。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 全職員が外部評価の意義や目的を理解し自己評価に取り組んでいる。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議を3ヶ月に1回開催しサービスの質の向上のための話し合いをしているが、会議録を作成するまでには至っていないので、会議を2ヶ月に1回開催するとともに会議録を作成することを期待する。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 重要事項説明書に苦情相談受付窓口を明記している。 職員は利用者や家族等から苦情や意見を聴き、ミーティングで検討するとともにサービスの質の向上に活かしている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 自治会に加入し地域の夏祭りや文化交流会などに利用者全員で参加し交流するとともに地域のボランティアを毎月受け入れ交流している。

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「利用者が有する能力に応じて、可能な限り自立した日常生活を営むことができるよう支援する」という独自の理念を掲げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	運営理念をホームに掲示するとともに、職員に説明しプレートにして持たせている。 また、職員はミーティングで意義を理解し共有している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し地域の夏祭りや文化交流会などに利用者全員で参加し交流するとともに地域のボランティアを毎月受け入れ交流している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全職員は外部評価の意義や目的を理解し自己評価に取り組んでいる。 外部評価の結果を踏まえ、運営推進会議やミーティングで話し合い、地域の人々との交流や地域の同業者とのネットワークづくりに努めるとともに、利用者の希望にそった外出支援は改善している。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を3ヶ月に1回開催し、サービスの質の向上のための話し合いをしているが、会議録を作成するまでには至っていない。	○	運営推進会議は2ヶ月に1回開催するとともに会議録を作成することを期待する。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	職員は市の担当部署を訪問し事業所の運営や課題などを相談している。 また、月1回介護相談員が来訪し介護情報を得ている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の健康状態や暮らしぶりは家族等の訪問時に具体的に報告している。 また、金銭管理は出納帳を作成し家族等の来訪時に確認してもらいサインをもらっている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書に苦情相談受付窓口を明記している。 職員は利用者や家族等から苦情や意見を聴き、ミーティングで検討するとともにサービスの質の向上に活かしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	併設するデイサービスや訪問介護、居宅支援の職員と交流を図るなどで馴染みの関係を構築しており、離職の際は利用者のダメージを最小限に抑えている。 また、職員の都合に合わせて勤務表を作成するなど、離職が少なくなるよう配慮している。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新規採用職員は内部研修を2ヶ月間受講している。 また、外部研修の案内を回覧して自主的な参加を促している。 看護師による研修会を月1回開催し職員の介護技術の向上に努めている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市主催の地域密着型サービス事業所研修会やケアマネージャー協会主催の研修会に参加し交流する機会に意見交換会を行うとともにサービスの質の向上に活かしている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用前に利用者や家族等に見学に来てもらい、職員と顔を合わせるにより利用者の不安を軽減し馴染めるよう支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は日々の生活のなかで洋裁や野菜づくり、生活の知恵、季節の行事のご馳走作り、昔ながらの味付けなど多くのことを教えてもらい、利用者と共に学んだり支えあう関係を構築している。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は生活歴を把握するとともに日々の生活のなかで利用者の残存能力やどのように暮らしたいのか、思いや意向の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者や家族等から意見を聴くとともに、全職員でカンファレンスを行い利用者の意向にそった介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	職員は介護計画期間に応じた達成度をモニタリングし、利用者の現状に即した介護計画に見直している。 また、利用者の状態に変化が生じた場合はカンファレンスを行い介護計画を見直している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者の要望にそって買い物や通院の支援をしている。 また、24時間の医療連携体制を活かして急な往診など臨機応変に対応している。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者や家族等の希望により主治医を決めている。 また、協力医による月2回の往診のほか看護師による週3回の見守りなど、利用者が適切な医療を受けられるよう支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期ケアに向けた方針を医師や利用者、家族と話し合っているが、「看取りに関する同意書」の作成や方針を全職員で共有するまでには至っていない。	○	「看取りに関する同意書」を作成するとともに、方針を全職員で共有することを期待する。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員はプライバシーの保護マニュアルに基づき、排泄や入浴支援の際は対応に十分に配慮している。 また、書類等は事務所に保管している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れは決っているが、利用者一人ひとりが散歩や縫い物、書道など好きなことをして過ごせるよう支援している。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員は利用者の残存能力を把握し一緒に食材を切ってもらったり、盛りつけや後片付けを担ってもらっている。 献立に利用者の嗜好を取り入れるとともに、職員は利用者と共に食卓を囲み支援しながら食事をしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的に週2回の入浴となっているが、希望にそって夜の入浴支援もしている。 また、入浴拒否の利用者には清拭や衣類交換、足浴の支援をしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	職員は利用者の生活歴を把握し食事の準備や片付け、農作物の収穫、洗濯物のとりこみ、居室の掃除など利用者の役割や楽しみごとに取り組めるよう支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	職員は年間行事を作成し夏祭りや花見会、ドライブ、買い物支援をしている。 また、利用者の体調に応じて外気浴を日常的に支援している。 家族了解のもと、知人と共に散歩に出かける利用者もいる。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	管理者や職員は鍵をかけることの弊害を理解しており、玄関や居室は施錠していない。 また、外出を察知した場合は声をかけたり一緒について行くなど、安全面に配慮した支援に努めている。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力を得て避難訓練を実施している。 地域の人々の協力体制については運営推進会議で検討している。	○	地域の人々の協力体制を確立するとともに災害時に備え食糧や飲料水を備蓄することを期待する。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	職員は利用者の1日の食事量や水分摂取量、カロリーを記録するとともに利用者の咀嚼状態に応じて刻み食を提供するなど、必要な栄養が摂取できるよう利用者にあわせて工夫し支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間や食堂、廊下は広く明るくするとともに、ホールは天窓を設置して自然の陽光が入るよう工夫している。 また、和室にはお雛様を飾ったり梅の花を活けるなど、季節を感じられるよう工夫している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者は居室に家具やテレビ、椅子、手作りの品、写真など馴染みの物品を持ち込み、落ち着いて過ごせる場所になっている。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。